



## キクバエビヅル(菊葉蝦蔓) <ブドウ科・ブドウ属>

本州から沖縄の温帯に自生し、山地の林内や林縁などに見られる落葉性のつる植物。巻きひげを出し低木などに絡みつく。葉は、互生に付き葉身5~13㎝。浅く3~5裂するものから深く5裂するものまであり変化が多いが、特に深く切れ込んだものをキクバエビヅルという。葉の裏は、淡褐色と白色のクモ毛にびっしりとおおわれ、6~8月に黄緑色の小さな花を付ける。実は直径6㎝程度の球形で黒く熟し美味。別名ブドウヅル(葡萄蔓)・・・▼子ども達の笑顔はじけた“もりメイトキッズ”。終えてホッと一息、皆が集う囲炉裏小屋へ向かう。途中、ふと見上げた先に小さな青い実を下げたエビヅルが。葉の切れ込みが深く、調べるとキクバエビヅルと判明。▼朝夕の涼風、道ばたにはノコンギク。行き交う雲にも秋の気配。酷暑の夏を惜しむかのようなミンミン蝉の声も、夜には虫の音が。夏から秋への季節の移ろいは、すてきな自然界の巧みの技か。

~2022年8月大竹市松が原にて~